

苺の定植後の管理について (NO1)

R6.10

アグリ技研 (株)

10・11月にかけても気温高い傾向の予報

1. 今後も暖秋・暖冬傾向の予報

本年は育苗期から猛暑日の連続で、花芽分化も遅れ不揃い気味だと思われま
す。未分化や分化初期での定植もあり出蕾の不揃いや高温による1次腋果の遅
れなど懸念されます。このために定植後は活着、発根促進を優先して地上部の
樹勢を余り強くしない管理に水管理や追肥の調整に努めましょう。

2. 活着・発根促進対策について

「定植後 30 日前後で根の環境も決まります」

「定植後の灌水は、株元を中心に少量多回数を行いましょう」

①定植後の発根促進効果に灌水処理の場合（灌水チューブ使用）

◎アミクエ 5～10 k/10a を 5 日置きに灌水処理

②活着と徒長抑制、1次腋果の分化促進の処理

◎アミクエ 500 倍+PK ゴー2～3000 倍の葉面散布

③蒸散作用促進と生育促進対策

◎新カル元気 2～3 kg を 5～7 日置きに灌水処理

2. 第1次腋果房分化対策（10月中旬～）

①定植後芯葉 2.5 枚展開後～

◎P・K ゴー2000 倍で葉面散布（3～5 日毎）に 3 回前後散布

②高温対策と細胞壁の強化（腋果分化対策）

◎カル元気 2～3 kg 又は有機カルトップ 1 kg を 5～7 日置きに灌水処理

* 第1次腋果房の花芽分化促進のポイントは

① 被覆資材での日中下温と日長対策（日中の温度を下げて分化促進）

②極端な灌水量の抑制は生育停滞になり遅くなる傾向です。

③PK 肥料の調整（N のコントロール）とカルシウムの施肥。